



常世田 正樹 議員



### 防災力の強化について

**問** 災害時に被害を受けやすい高齢者や障がいのある方を対象とした避難訓練や受入れ訓練を行うことが重要であると考え、訓練を実施する予定はあるか。

**答** 要配慮者を対象とした避難訓練の必要性はあると考え、訓練の必要性はありとされており、関係各課や福祉避難所の運営者等からの意見を聴取し、今後、調査研究していく。

**問** 旭市こども発達センターを難することのできる指定福祉避難所とすることはできないか。障がいのあるお子さんを抱えたご家族が安心して避難することのできる場所をつくってほしい。

**答** 海上庁舎、海上公民館、海上庁舎東館は、自家発電設備が整備されており、避難所利用の際、他施設と比べて大きなアドバンテージがある。旭市こども発達センターを含む海上庁舎東館を指定福祉避難所とする件は、人員

の確保等の課題と併せ、迅速に現状の福祉避難所であるロザリオの聖母会と協議を進め、同法人の相談支援を担う機関である海匠ネットワークにも協力をもらいながら、関係各課及び関係団体などを交えて実現の可能性を検討していく。

### 農業の振興について

**問** 市は親元で就農した青年等に対し、親元就農チャレンジ支援金を支給している。対象者は旭市内の農地で農業を営むの子または孫であるが、要件を緩和し、第3親等までを対象とすることはできないか。

**答** 本事業は県内では旭市のみでの事業効果や他産業とのバランスを総合的に検証し、慎重に検討する。

**問** 地域おこし協力隊を農業分野で採用する予定はないか。

**答** 農業分野での地域おこし協力隊の活用は、新たな若い移住者の新規就農支援や、農業・漁業後継者の育成を図るためにも非常に効果的なものと考えており、採用に向け、募集条件の詳細や募集人数など、さらなる検討を進めていく。

※地域おこし協力隊：解説は16ページ。

### 就学前健診・児童発達支援について

**問** こども家庭庁は、発達障がいの可能性を見極めるのに有効な5歳児健診普及のため、来年度から健診に必要な医師ら確保する費用や研修費を自治体に補助し、全国での実施率を2028年度までに100%にすることを目指すとのことだが、本市での5歳児健診実施について考えを伺う。

**答** 医師会や旭中央病院とも協議を行っているが、子どもの発達を適切に診断できる医師の確保が困難なことや、フオローアップ体制の整備が十分ではないことから、難しい状況。他市の実施方法など様々な事例を研究し、実施に向けて検討していきたい。

**問** 児童の発達障がいについて、周囲の保護者などの理解も大切と考えるが、小学校入学前に行う就学前健診で保護者が待機する時間を活用し、児童発達について理解を深める場を作ること

はできないか。

**答** 就学前健診の待ち時間の活用については保護者向けの様々な説明の他、学校によっては独自の講演を行っているところもある。今後、保護者のニーズなども把握しながら研究していきたい。

### グリーフケアについて

**問** 子どもを亡くした家族へのグリーフケアについて、どのような体制となっているのか。

※グリーフケア：解説は16ページ。

**答** ホームページに流産・死産へ向けた相談窓口やサポート団体などの情報を掲載している。また、お子さんを亡くした方から相談があれば、子育て世代包括支援センターや健康づくり課で傾聴し、専門の相談機関を案内している。

**問** 死亡届出時に市民生活課窓口で渡している『おくやみハンドブック』と一緒に、グリーフケアに関する相談窓口等の情報も渡すことはできないか。

**答** グリーフケアやサポートに関するリーフレットを作成し、届出があった時点で配布をしていきたい。

### その他の質問事項

○おひさまテラスについて  
○不適切な保育について



崎山 華英 議員

